

【団体名】 AWA 安城森林環境アカデミー

【事業の目的】

安城にはかつて豊かな森がありました。安城市は、その貴重な森を失いかけています。そこでエコきちに展示会場を借り、市民の森ミュージアムの展示物でその事実を市民の皆さんに伝えることで安城市での森の再生の必要性和町の中での森再生の具体案を提示し、安城から世界の森の再生をスタートさせます。

【実施内容】

- ① 原始の森の現地調査－安城がある碧海洪積台地に残る原始の森の調査委員会を立ち上げ洪積台地の矢作川に面するエリア豊田、岡崎、安城、西尾に断続的に残る森の形跡を全体的に調査した。
- ② 2007年よりスタートさせた原始の森の調査結果と2015年度の調査結果を、大きな現代の地図の上に重複して表示して展示し、地図上に示された原始の森の形跡を追うことで市民が現在残っている森から、一目で、安城の過去にあった森と、現在かろうじて残る森と、未来にあるべき森と安城市内での森づくりの在り方をシミュレーションできるようにした。
- ③ 調査結果を写真に収め、原始の森の形跡とそこに残る古木をリストアップし、撮影した写真をパネルにして展示した。
- ④ 洪積台地の土のサンプルを採取展示し、また原始の森の形跡に残る洪積台地が海に面していた時代の貝殻や、古い土器などを調べ展示し土と植生の関係、太古の安城の人と森との関わりや、洪積台地の壮大な自然の歴史を視覚と説明文章から感じ取れるようにした。
- ⑤ 安城洪積台地に残る原始植生の古木から種を採り、発芽させて展示し、実物からリアルに森を感じ取れるようにした。
- ⑥ 展示物でパズル合わせに例えて森の再生について説明し、安城市内での森の再生の具体例を提案した。
- ⑦ ガラスの箱の中に生きた森を育てる生命アート LSA を展示することで、ともすれば難しくなりがちな展示内容の導入として、今回の展示物に市民が親しみやすいようにした。

- ⑦ 原始の森の調査委員会の中心となるエコネット安城自然部会主催で、市民参加者を現地に案内をする、「安城原始の森バスツアー」を開催し、市民に原始の森を紹介した。

【成果と課題】

① 成果

●森の調査を行ったことで、安城原始の森への調査委員会そのものの森への理解が深まり、展示内容に反映することができ、また実際に森の形跡やそこに残る木々を確認することができ、未来に残すべき市民の自然遺産を認識することができた。

●展示物を見て頂くことで、市民に「安城にかつて豊かな森があったこと」「原始森の必要性」「森再生の具体例」を目で見てわかる形にできた。

② 課題

安城の森の調査は順調に進んでいるが、洪積台地全体の森を全体的に知る事こそが、この活動の到達点である、そう意味では、調査は長く続きます。根気よく活動を進め調査や展示の完成度を高めていくことがこれからの課題になる、またそれが、未来の安城市民と森との共存に繋がる結果をもらせ社会全体の自然の再生意識を高めることにも繋がっています。



↑ ミュージアム入り口案内ポスターパネル



↑ 安城洪積台地原始の森の古木たち、奥に並んでいるのは、
原始の森から得られた生体サンプル



↑ 中央パネルは壊さなければ残っていたはずの原生林の様子を
現在に残している森の写真
カウンターに並んでいるのは、土のサンプルと貝殻と土器
たくさんの小さな細かい写真は、安城洪積台地輪郭斜面に断続的に
残る森の形跡…